

四万十町の学校訪問(9) 窪川中学校の風景



校区は、標高230mの盆地状の台地部(高南台地)と太平洋に面した海岸部志和地区からなり、校区の総面積は、約2600haになります。

本校は、仁井田・松葉川・東又・志和・窪川・川口の6中学校が統合し、校舎が新しく現在の位置(香月が丘)に建設され、昭和49年4月8日に実質統合中学校として発足しました。校舎は、街の中心部よりやや北寄りの静かで環境の良い場所に位置し、生徒たちは12の小学校地区から通学しています。中には片道15キロ余りかけて通学する生徒もいます。遠隔地の生徒のため香月寮

を設けていましたが、平成13年度をもって閉寮となりました。統合時の生徒数は796人でしたが、現在321人まで減少しています。



教育目標を『自分自身を見つめる目を育てる』とし、人間を大事にする生徒 心も体も健康で、生き生きとした生徒 汗を流すことの大切さを知り、困難に立ち向かう生徒 探究心をもち、自ら進んで学習する生徒の育成を目指して取り組んでいます。



本年度は、県指定の「目指せ!教育先進校応援事業」や町指定の「校内研究支援事業」等の支援を受け、授業改善や授業力の向上に努め、生徒

の学力向上を図っています。

部活動も活発で、本年度は、野球部・女子ソフトボール部・陸上部・水泳部・卓球部が四国大会に出場しました。

〔お問い合わせ先〕窪川中学校 22-0020

マリサ通信

ある勉強会で知り合った国際交流員はこう言いました:『多くの国際交流イベントは日本と外国の違いを強調するだけ。外国の珍しい物を紹介するだけで、日本での日常生活にどう関わっているか参加者に考えさせない』。

面白い意見だと思って、ハワイに帰った時にいろいろ考えてみました。天候や食べ物など、もちろん典型的な相違点はありました。

一方、多くの共通点も気付きました。といっても、体験しないと実感が湧かないことが多いでしょう。



ハワイに帰って、久しぶりに親せきの家に行った時に、食べきれようもないボリュームの美味しい料理で迎えられました。年末にハワイに帰った友だちと会った時に、つまらない話をしていたら、あっという間に4時間が過ぎました。以上の文章に皆さんの日常生活を入れ替えても違和感はないでしょう。知り合いの国際交流員から習ったレッスンを心がけ、小学校の交流イベントを頑張り続けたいです。

去年、四万十町に来た、いともこにも会ってキムチ鍋を食べました。鍋用のスープやエノキなどを地元のスーパーで買いました。

次の日、近所にあるマラサダ(ポルトガルのドーナツ)の店に行ったら、「次は横浜で会いましょう」というようなピラが貼ってありました。2008年に店舗ができたそうです。国際化は素晴らしいですね!

イベントの知らせ 国際クラブの定例会として2月14日に町内のレストランで食事をします。一緒に食べませんか。改善センター玄関に19時集合です。

〔お問い合わせ先〕生涯学習課 マリサ 22-3576